
イカロスの誘惑

桐生星男

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イカロスの誘惑

【EZコード】

N7263D

【作者名】

桐生星男

【あらすじ】

重大な夢を見た僕は目が覚めると忘れた。布団は重くのしかかり、本物の僕は遠くでプランプランしていた。恋人の綾子に会うために、僕は決断をした。紐の中で足搔く僕を針の穴に通し、膨らんだ僕に突き刺すのだ。そして僕は空を見た。

重大な夢を見ていたけれど忘れた。

目が覚めると僕は遠くの方の空で紐の中にいた。

紐の中は狭く細胞のブロックがぶつかり合つ隙間もなくて、冷たい。寒い。どうにか抜け出そうと思つて体をぐりぐりと動かしてみたけれど、中はブラックホールのようにガチガチに固まつていて身動きが取れない。声を出してみようと思つたけれどダメだった。僕は学校に行かないといけないのに。僕はがつこうにボクハガツコウ二と何度も思つていると、僕は布団の中にいることに気付いた。遠くの紐の中の僕と、布団の中の僕。マンションの八階、自宅の部屋の布団の中の僕は明らかにニセモノだった。

ニセモノの僕は布団の中から田だけを動かして部屋の中を眺めてみた。タンスが湾曲しながらせり出し覆いかぶさつて来て、天井が目の前にある。タンスは倒れ込みそうになるまで曲がるしどんぞん部屋は狭くなる。ああ、部屋が狭くなるんじやなくて僕が膨らんでいるのか。でもこんなに狭い部屋だつたつて、どうなるんだろう。と思っているうちに部屋はぐんぐん狭くなつていき、僕は天井に押し付けられるようで息苦しくなつた。布団は重いし天井は息苦しい。

僕は天井の隙間にどこか抜け道がないか探してみた。天井はブロックできつしり埋め尽くされていた。息苦しいはずだ、どこにも隙間がない。黒、白、黒、白。天井は隙間なくブロックで埋め尽くされているけれど、これ以上巨大化したら僕は天井に飲み込まれてしまうに違いない。ああ、僕が本物の方の僕だったら！ 本物の方の僕だったら隙間なんてなくても通り抜けられるのに。本物の方の僕は白い紐の中で風に揺られてプランプランしている。中はブラックホールの黒できしきしに詰まって身動きが取れない。

滝のような汗の中でうんうん唸つていると、遠くの方で何か聞こ

えた。今僕の耳は二セモノの方だから、どんなものも遠くに聞こえる。今聞こえたのは誰かの声みたいだった。どうにか聞き取ろうと、ようく耳を澄ませてみた。恋人の綾子だつたらいいのに。綾子だつたらどっちが本物の僕か、一目で見抜けるはずだ。何しろ僕はもう膨らみすぎていて、このままでは部屋の中にいられないくらいだからだ。本物の方はぎちぎちでもがいてはいるけれど、確かに僕に違いない。そこで僕は強く念じてみた。綾子、綾子、綾子。僕は綾子の制服のスカートの、チャックの柄を思い出した。赤、黒、赤、黒。ようく見ると赤は赤でなく、白だった。白、黒、白、黒、ああ、そうか、白が赤なんだ。白は何色にも変化する。そう思つた途端スカートは巨大化して、ブロツクとなつて僕に覆いかぶさってきた。苦しい。そうだ、綾子の好きな色は白だったか黒だったか、どっちだつたか思い出せ、早くしろ！ 早く！ ブロツクの束が心臓の動きのように大きく小さく蠢きながら絡みつく。白、黒、白、黒、ちくしょう、あの声は綾子じゃなかつたと言うのか。そうしている間にも天井は、膨らみすぎた僕に覆いかぶさる。

声の主は綾子ではなくて僕の母親だった。あまりにも遠くから聞こえるから分からなかつた。無理もない。本物の僕はあんなに遠いところでプランプラン揺れながら中でもがき苦しんでいるのだから。せめて風に揺らされるだけじゃなく、自分の行きたい方向に動けば。だけどそれは動けない。もし自由に動ければこっちの、マンションの部屋で膨らんでいる二セモノの方に来れるのだけれど、そのためには少なくとも針の穴を通らないといけない。針に導かれながらこっちに来るしかないだろう。針だつたら大丈夫だ。針なら真つ直ぐしているし、風にプランプランされない。それに針で僕の中を突き抜けて通つてゆけば、巨大化しすぎた僕はパチンと割れてたちまち元に戻るに違いない。そう思つて身をよじりながら何とか針の穴を通ろうとするけれど、紐は風でプランプラン揺れるからなかなかうまく行かない。ああ、この紐の中から出られたら！

母の声は遠くで僕に何か言つていたけれど良く聞き取れなかつた。

おかゆとお薬とか言つていったような気がするけれど、こんな時にそんなことを言うなんて馬鹿げている。やっぱり綾子じゃないとダメだ。人選を間違えた。それに、おかゆにスプーンだつて？！ 箸じゃなく、スプーンだなんて！ 箸じゃないとダメだろ？、どう考へても。スプーンじや布団は掴めないだろ？ 僕は絶望的な気分になつた。絶望的になりながら、僕はゆっくりと箸で布団をつまみ上げるところを想像してみた。布団は鉛のように重い。鉛のようについくせに小さくちぢんでいるので一向に掴めない。布団はするつするつと逃げるよつと深く深く沈んでしまつた。だけどスプーンだなんて馬鹿げている。スプーンでは布団も何も掴めないじゃなか！ とにかくおかやは諦めて、僕は薬を飲んだ方が良さそうだった。とにかく学校へ行けば綾子がいる。僕は薬の袋を手に取つた。薬の袋には「お薬」と書いてあって下に何かが書いてある。お薬、お？

「お」が本当に「お」なのか分からなくなってきた。「お」は「お」のところが黒で他は白、ただそれだけ。天井を見るどびつくりするほど田の前にブロックはあつた。ブロックの隙間はまだ見つからない。僕はここから逃げ出さないといけない。そして学校に行かないといけない。僕はがつこつにボクハガツ ロウニボクハ……。

とにかく僕は何とか薬を飲んで、本物の方に意識を集中させた。紐の中から抜け出すことはもうとつぐに諦めて、とにかく針の穴を通ることだけに集中してみた。表が白で、中がギシギシで黒。ああ、巨大化した僕なら何とか紐を穴に通せないかな？ だけど巨大化した僕は、布団に縛り付けられた上、天井に押し付けられている。箸もない！ タンスは歪んで覆い被さつて来るし、綾子はいない。お

薬は、お、お、お、お。「お」と「の」は似ている。おのおのおのおのあやこ。ああ、「あ」も似ている！ 今、僕はエロスを見た。強烈な小野綾子。チエックのスカート。プラトンのエロスはプラトニックラブ。嫌だ！ そんなのはイヤだ！ 僕は僕は僕は、ガバリと布団から起き上がった。

起き上がった拍子に天井がガン、と遠くへ逃げた。ほほつ！ そうきたか、と感心している間にも僕はまた膨らみはじめる。天井が迫ってくる。息苦しさがまた増してきた。もうこうなつたら自棄だ。飲み込むなら飲み込んでみる。僕は、ひょい、と天井に向かつて飛んでみた。ガン、と天井が逃げた。ヒヨイ、と飛んで、ガン、と逃げる。ヒヨイ、ガン、ヒヨイ、ガン。素晴らしい！ もう僕は、いても立つてもいられない。もう限界だ。綾子に会いたい。会わなければ。今すぐ！ 僕は玄関まで走った。玄関が逃げていく。僕はふらふらになりながら追いかけた。すうっ、と逃げていく。みんなが逃げていく。エロスが逃げていく。逃がすものか！ 僕は思い切り玄関のドアを開けると、空にプランプラン揺れている僕を見た。

ああ、すぐそこじゃないか。ずいぶん遠くにいると思っていたのに。膨張し続けたおかげで僕は、プランプランの本物の僕に手が届く。と、思つて手をのばしたらあと少し足りなかつた。届きそうなのに届かない。手すりに腰を預けて下を覗くと、八階なのに地面がすぐそこだつた。そういうことか。だつたらもう躊躇はいらない。それより早くしないと。僕はもう膨らみすぎた。こうなつたらあれしかない、でんぐり返しだ！ この手すりから身を乗り出して、向こう側に一回くるりとまわればすぐに、手は紐に届くはずだ。そしたら針に糸を通そう。そしてやつと綾子に会える。僕は綾子の白い唇を思い出した。もういても立つてもいられない。いますぐ！ 今すぐにだ！ 僕は目をしつかりと見開いたまま、ヒヨイ、と飛び上がつてでんぐり返しをした。

宙に浮いた僕は、空を見た。マンションの屋上の向こう側、晴れ渡つた青と白い雲。急速に縮んでいく僕。ああ、そうか。縮んでい

けば、落ちずに宙に浮くんだな。これは大発見だ。ぐんぐんと縮んでいく。膨らんでた時予想したように地面をじろりと転がることは出来ない。ぐん、となつて、すうつ、となつた。ああ、思うようには、いかないもんだな。背中にスカスカの感触が触れ、空が遠くなつて、最後に風の音だけが聞こえた。

綾子、だけど僕は宙に浮いているよ。綾子、僕は空を。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7263d/>

イカロスの誘惑

2010年10月8日15時08分発行